



三本桜

第21号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
9月の目標：伝わるあいさつをしよう

学校行事で育つ力

1～4年生の校外学習、5年生の緑の学校、6年生の修学旅行といった、子どもたちが楽しみにしている行事が迫ってきました。

さて、平井堅さんの『桔梗が丘』という歌の歌詞に「あなたが何かに傷ついた時 変わってあげられない齒がゆきは それを乗り越えた時の笑顔を見つめた時に 私の誇りになるから」という一節があります。

がんばっている子どもを見守る親の気持ちを歌った歌です。学校行事は普段の学習とは違って、集団で行う活動です。自分のよさに気付いたり、友達のすごさを認めたり、集団としての成長を実感したりしながら仲間と一緒に作りあげるものです。その過程では、自分の思うように行かないこともあり、ふて腐れたり泣きたくなったりすることがあるかもしれません。そんなときはお子さんの成長のチャンスと信じ、乗り越えたときの笑顔を楽しみに支えてあげてください。よろしくお願いいたします。

勉強のいちばんの成果は、もっと勉強したくなることです

(日本教育大学院大学ポスター2015)

「どうして勉強しないといけないの?」「勉強して何かいいことがあるの?」という質問を子どもの口から聞いたことがある方は多いはずです。答えるのはなかなか簡単ではなく、時に頭ごなしに「そんなこと考えなくていい!」と否定したり、「勉強すればわかるよ!」と逃げたりしてしまう大人が多いのではないかと思います。実は「勉強すればわかる」という答えは、必ずしも間違っていない。「勉強をしてわかるのは、もっと勉強することがあるということ」は事実だからです……。だとすれば、勉強のいちばんの成果は、「学び続ける意欲をもてること」なのかもしれません。「人生、一生涯勉強」、簡単なようで真実をついた言葉だと思います。

老子の格言の一つに、「授人以魚 不如授人以漁」という言葉があります。「人に魚を与えると1日で食べてしまう。しかし、人に『魚の獲り方』を教えれば生涯食べていくことができる」という意味です。

私たち教員の大切な仕事の一つは、子どもに「魚=知識」を与えることです。しかし、「魚の獲り方=学び方」も合わせて教えることができれば、こんなに素晴らしいことはありません。現在、高取小学校で研究している自由進度学習は、学習内容を教えるにとどまらず、「学び方の学び方」も並行して鍛えていきます。「学び方」の成長なしには、成立しない授業手法です。授業を通して、子どもたちに「学び方」を教え、体験させ、育てていきたいと考えています。

